

# 降雪と低温に対する農作物の管理について

令和7年3月18日  
農業技術課

甲府地方气象台によりますと、3月18日夕方から19日朝まで雪となる予報です。この時期は、水分が多く重い雪となりやすいため、短時間の降雪でも被害につながる恐れがあります。降雪に備えて事前の対策はもちろん、降雪中の対策も行ってください。ただし、高所での作業や暗くなってからの作業は細心の注意を払って行いましょう。また、その後の20、21日と最低気温が低めに経過する予報となっています。今後の気象情報に注意し、農作物の管理を徹底して下さい。

2025年03月18日05時 甲府地方气象台 発表							
日付	今日 18日(火)	明日 19日(水)	明後日 20日(木)	21日(金)	22日(土)	23日(日)	24日(月)
山梨県	曇後雪か雨 	晴一時雪か雨 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 
降水確率(%)	-/20/20/50	80/20/10/0	10	10	20	20	20
信頼度	-	-	A	A	A	A	A
甲府 気温 (℃)	最高	11	13 (11~15)	17 (15~19)	19 (17~21)	19 (16~24)	20 (17~23)
	最低	-	2 (-3~1)	-1 (-3~1)	2 (0~5)	3 (0~6)	3 (0~6)

## 降雪対策

### <果樹>

#### ○ハウス栽培

- ・加温前のハウスでは、谷や巻き上げたビニールなどへの積雪には注意し、積雪が増える場合には荷重バランスに注意しながら、速やかに除雪する。
- ・降雪中加温が出来るだけの燃料を確保しておく。
- ・加温中のハウスでは、降雪直後から二重カーテンを開放し加温を始め、融雪を早く行い、着雪しないよう努める。
- ・ビニールハウスなどの無加温ハウスでは、簡易ストーブで加温し、融雪させる。また、補助支柱を設置して補強する。

#### ○露地栽培等

- ・防鳥網が設置してある園では、防鳥網を除去する。
- ・ブドウ、キウイフルーツ、棚栽培のスモモなどでは、せん定作業が遅れている園では粗切り剪定を行い棚への着雪を少なくする。
- ・立木類では、積雪による枝折れを防ぐため支柱などで補強する。
- ・雪が積もった場合は、棚等の荷重バランスに注意しながら、できるだけ速やかに除雪する。

## <野菜・花き>

- ・トンネル栽培では、積もった雪は早めに除雪し、押しつぶされる等の被害を防ぐ。特に、定植後や発芽している場合は注意する。また、降雪後の換気に注意し、トンネル内が加湿状態にならないように管理する。
- ・スイートコーン等のトンネルの準備を行うほ場では、堆肥の散布による融雪対策等を行い、準備が遅れないようにする。
- ・未使用ハウスではビニールを巻き上げるか、除去し、積雪による倒壊を避ける。

## <畜産>

- ・積雪による畜舎や家畜の事故防止を図るため、安全には十分に配慮した上で、早めの雪下ろし及び畜舎周辺の除雪に努める。
- ・積雪に伴う物流の遅延などに備え、予め飼料、燃料、飲水などを十分確保する。
- ・積雪による防護柵の破損や、野生イノシシの柵の乗越えに注意する。

## ○低温対策

### <果樹>

#### ○施設栽培

- ・加温ハウスでは、暖房機によりハウス内の温度低下を防ぐ。
- ・無加温ハウスでは、カーテンを閉めて保温に努めるとともに、簡易ストーブ等を使って加温する。
- ・ハウス内の夜温低下を防止するため、土壌表面を清耕するとともに、日中の気温の高い時間に散水しておく。
- ・ハウスは午後早めに密閉して、ハウス内に余熱を確保する。
- ・雨除け施設では、ビニール被覆により降霜を防止する。

#### ○露地栽培等

- ・凍霜害の常習地帯や生育が進み被害の発生しやすい場合には、摘蕾や摘花を軽く行っておき、摘果による着果数の決定は凍霜害の危険のなくなった時期とする。
- ・煙の少ない燃焼資材による対策や防霜資材の活用による対策を行う。
- ・低温や凍霜害の被害を受けた場合、開花中であれば下向花や遅れ花を中心に丁寧な受粉を行うとともに、受粉回数を増やす。また、摘花や摘果を遅らせる（着果数の決定は凍霜害の危険がなくなってから行う）。

### <野菜>

#### ○無加温ハウス栽培（スイートコーン等）

- ・外気温が $-1^{\circ}\text{C}$ 以下になると予想された場合、ハウス内を多層（2～3層）被覆するとともに、状況によっては簡易ストーブ等を使って保温する。

#### ○トンネル栽培、露地野菜（スイートコーン、レタス等）

- ・低温が予想される場合は、さらに保温効果の高い被覆資材（シルバーシート、不織布等）を利用し保温に努める。
- ・スイートコーンのトンネル栽培では、軟弱徒長しないよう日頃からトンネルの換気に注意する。

#### < 茶 >

○降霜が予想される場合は、以下の方法で寒冷紗等により被覆を行う。

- ・棚がけは、被覆資材を株面より60～90cm離して被覆する。被覆資材は光線透過率が40～50%のものを用品、日中は開けておく。
- ・トンネルがけでは、被覆資材を株面より40cmの高さに被覆する。被覆資材は光線透過率が50～90%の不織布を用いる。

なお、農業技術課HPに対策資料を掲載していますので参考にして下さい。

#### 気象災害防止及び対策HPアドレス

<https://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/kisyousaigai.html>

農作物の気象災害に対する技術対策資料  
果樹の気象災害対策マニュアル  
農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針